

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース67号

2013/09/23 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：高値継続。ロンドン1700£を超えたが上値は重くやや下落した。

①週最高：12月LDN市場£1,722 / 12月NY市場\$2,636 (9/16) 先週比 **LDN+ £ 23/NY+ \$ 35**

②週最低：12月LDN市場£1,700 / 12月NY市場\$2,608 (9/20) 先週比 **LDN+ £ 16/NY+ \$ 54**

週内価格差額 (①-②)：LDN市場£22 (傾向→) / NY市場\$28 (傾向→)

週内建玉推移：LDN市場 212,803枚(9/13終了時)⇒ 209,099枚 (9/19終了時) **-3,704枚**

NY市場 201,602枚(9/13終了時)⇒ 205,653枚 (9/19終了時) **+4,051枚**

【9月16日(月)】NYは5日続伸=LDNも高い

ニューヨーク市場は5営業日続伸。需要回復の兆しやカカオ豆の主要産地である西アフリカの供給不安が背景。

12月きりは35ドル(1.3%)高の**2636ドル**で終了。3月きりは34ドル(1.3%高)の2640ドルで引けた。

ブローカーらによると、西アフリカでの最近の降雨が長引くことで、病害によってカカオ豆の生産量が落ちる恐れがあるとのリスクが供給不安を高めているという。ロンドン市場の12月きりも23ポンド(1.4%)高の**1722ポンド**と、3営業日続伸して取引を終えた。

【9月17日(火)】いずれも反落=買われ過ぎとの見方

ニューヨーク市場、ロンドン市場いずれも反落、ニューヨークの12月きりは22ドル(0.8%)安の2614ドル、ロンドンの12月きりは17ポンド(1.0%)安の1705ポンドで引けた。

ニューヨークの12月きりは一時2648ドルと、1年ぶり高値水準まで上昇したが勢いを失い、マイナスに転じた。

一方、需要拡大の兆しや、西アフリカでの収穫懸念で下値は抑えられた。

あるディーラーは「膨大な買い持ちが積み上がっており、持続不可能だ」と指摘。「相場は勢いを失い、踏みとどまろうとしている」との見方を示した。

一方で、マッコーリーのコナ・ヘイク氏は「大方は相場は上がり過ぎと感じているかもしれないが、われわれは一段高の必要性を見ている」と指摘した。その上で、相場は10~12月期に向け、2500

～2900ドルを維持するとの予想を示した

【9月18日(水)】 ニューヨーク、ロンドンとも反発

ニューヨーク市場のココア先物は小反発。12月きりは9ドル(0.3%)高の2623ドルで引けた。リバティ・トレーディング・グループ(米フロリダ州)のジェームズ・コーディアー社長は「ココア市場のファンダメンタルズは、上昇するのに十分」と話した。西アフリカの乾燥天候に起因する供給懸念や強い需要を背景に、ココア相場は投機的な買いによって押し上げられてきた。ロンドン市場の12月きりも、7ポンド(0.4%)高の1712ポンドと反発して引けた。

【9月19日(木)】 ニューヨーク、続伸＝ロンドンは小安い

ニューヨーク市場は続伸、12月きりは7ドル(0.3%)高の2630ドルで取引を終えた。一時2657ドルと1年ぶりの高値を付けたものの、引けにかけて利益確定の売りに緩んだ。ココア相場は最近、西アフリカの乾燥天候懸念と予想以上に強い実需に支えられて上昇傾向にある。ロンドン市場の12月きりは1706ポンド、3月きりは1ポンド安の1685ポンドと小幅下落して引けた。

【9月20日(金)】 ニューヨーク、ロンドンとも下落

ニューヨーク市場は反落。

12月きりは一時、上昇したものの下げに転じ、22ドル(0.8%)安の2608ドルで終了。英ポンドが対ドルで下落したことに伴うもので、14日間相対力指数はテクニカルな買われ過ぎの水準である62近辺だったが、低下した。ロンドン市場も下落し、12月きりは9ポンド(0.5%)安の1700ポンドで引けた。

2、ガーナ 2013/2014 シーズンのカカオ買付けの為に 12 億ドルの融資契約を締結(9/21)

ガーナのカカオ産業の統括期間であるココボッドは新シーズンの開始を前に12億米ドルのシンジケートローン(複数の金融機関が、同時期に同一の条件で実施する協調融資)の締結を行った。昨年度の融資額は15億米ドルであった。

このココボッドとフランス系金融機関であるSOCIETE銀行をリーダーとする国際的な銀行団、ガーナ国内の銀行による協調融資で、ココボッドは83万トンのカカオ豆をガーナ国内のカカオ農家から買い付けることが可能になった。

3、インドネシアは今後低いカカオ豆の輸出関税の設定が必要＝副通商大臣(9/18)

インドネシアは現在行われている一連の国内のカカオ磨砕数量に対する投資が終了した後、2015年に発生するかもしれないカカオ豆の不足に備えて、カカオ豆の輸入関税を下げる必要があると、副通商大臣が語った。

世界第3位のカカオ生産国であるインドネシアのカカオ磨砕数量は来年には25%上昇し、50万トンにな

る予測で、同国のカカオ豆の生産数量も大よそ同じ数量になる予測だ。

一方で磨砕数量は既にカカオ豆の生産数量と同じになるだけではなく、今後も拡大し続ける見込みとインドネシアカカオ協会は報告している。

『これだけ急激な国内の磨砕数量の拡大によるカカオ豆の需要の拡大があると、我々は現在のカカオ豆の輸入方針を見直さなければならないだろう』副通商大臣の Bayu Krisnamurthi 氏は業界のイベントの際のインタビューでそう答えた。

現在、輸入カカオ豆の関税は 5% で、輸入カカオ製品（カカオマス等）は無税であるが、今後はこれを逆転すべきだろうと前述の Bayu Krisnamurthi 氏は、いつ、どのくらいの関税率の変更を実施するかなどの詳細については触れなかったが、大枠の方向性を示した。

しかし、彼は 2015 年には国内需要の増加によりカカオ豆の供給不足になるかもしれないと懸念を示した。2010 年にインドネシアは国内の磨砕能力の拡大に拍車をかけ、同国周辺のチョコレート需要の拡大に備える為の手始めとして、カカオ豆の輸出関税は 15% まで設定できるとした。

この施策は功を奏し、カーギル社やバリーカレポー社等の投資を呼び込むことに成功し、ついに現在ではカカオの生産数量を上回る磨砕能力となった。

インドネシアに輸入されるカカオ豆の数量は比較的少ないが、業界筋の予測によれば、今年で 40,000 トン、来年は 75,000 トンにまで輸入数量は拡大する予測だ。

インドネシアカカオ協会によれば、上記のような輸入がされたとしても、来年の同国の磨砕可能数量 740,000 には遠く及ばない。

政府関係者筋が語る予測統計数値は業界筋が予測する数値と大きくかけ離れていることも多いが、インドネシア産業省の食品・水産担当役員によれば、2015 年の磨砕数量は 950,000 トン以上になるともいわれている。

また、カカオ豆の供給面では、同国の業界筋は 2020 年までに現在のカカオ生産数量の 3 倍を目指している。

4、12年10月～13年8月のカカオ豆輸出量、前年比6%増＝コートジボワール(9/18)

18日に公表されたコートジボワールの港湾暫定統計によると、2012年10月～13年8月の同国の主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）からのカカオ生豆輸出量は合計で103万0928トンと、前年同期を6%超、上回った。

5、カメルーン産カカオ、農家出荷価格は上昇（9/19）

カメルーンカカオの農家出荷価格は 2013/2014 シーズンの最初の収穫がおこなわれた 8 月を終えて、主要な生産地域全体で大よそ 25% の上昇している。

世界第 5 位のカカオ生産数量であるカメルーンのカカオの販売シーズンは 8 月 1 日から開始する。

主要なココアの販売地域である南西州の Kumba では、先月の 1 kg 当たり 850 C F A（≒\$1.73）から現在 930 C F A（≒\$1.89）まで価格が上昇している。

しかしながら、Kumba を生産と輸出の本拠地とするカメルーン・マーケティング・コモディティ社のマネージャーはカカオ豆の価格は昨年同時期よりも今年は非常に低かったことに不満を語った。

『Douala から来るカカオ買付け人の数はあまり多くなかった』彼は言う。『この理由は国営カカオ&コ

ーヒーボード（NCCB）がいくつかの認定を受けていない買付け人や輸出者を排除する為の手続きを行ったからだう』

南西州と中央州は 7 月末で終了した 2012/2013 シーズンでは前年対比 4%上昇で 228,948 トンに達した同国のカカオ生産数量の其々約 40%を占めている。

しかしながら 2013/2014 シーズンは中央州、南部州、東部州においては数カ月に渡り乾燥と涼しい天候が続いたため、急激に生産数量が落ち込むのではないかと危惧されている。

下記は、この 1 カ月を通じた各地域での平均的な農家出荷価格である。数値は農家や生産組合から情報を得たものであり、価格は 1 キロ当たりの C F A 通貨にて表わしている。

州	地区	9月	8月
南西州			
	Mamfe	850	700-750
	Konye	900-925	800
	Kumba	930	850
	Muyuka	885-900	800
	Mbonge	930	755-800
中央州			
	Bafia	1,130-1,150	750
	Emana	1,050-1,100	650
	Mbalmayo	1,000	600-650
南部州			
	Ebolowa	950-975	650
	Sangmelima	985	650-665
東部州			
	Bertoua	900	500-525
	Yokadouma	850	500

1\$=491.3900 CFA francs

* 用語解説）CFA francs

CFA フラン（セーファーフラン、仏 Franc CFA）は、西アフリカ、中部アフリカ地域の旧フランス植民地を中心とする多くの国で用いられる共同通貨。西アフリカ諸国中央銀行（Banque Centrale des Etats de l'Afrique de l'Ouest、BCEAO）発行のもの（ISO 4217 コード **XOF**）と、中部アフリカ諸国銀行（Banque des Etats de l'Afrique Centrale、BEAC）発行のもの（同 **XAF**）との 2 種類がある。両者は通貨としての価値は同一であるが、相互には用いられていない。

《使用国について》

- 西アフリカ諸国中央銀行発行
 - セネガル
 - ギニアビサウ（旧ポルトガル植民地。1997年まではギニアビサウ・ペソを使用していた。）
 - マリ共和国（1962年から1984年まではマリ・フランを使用していた。）
 - コートジボワール
 - トーゴ
 - ベナン
 - ブルキナファソ
 - ニジェール
- 中部アフリカ諸国銀行発行
 - チャド
 - 中央アフリカ共和国
 - カメルーン
 - 赤道ギニア（旧スペイン植民地）
 - ガボン
 - コンゴ共和国

《カメルーン地図》



今週の関連ニュース：日本、T P P分野別会合で米・カナダと関税本格協議(9/20)

環太平洋連携協定（T P P）交渉をめぐり、日本は20日、米国、カナダとも関税の撤廃・削減に関する協議を開始、コメ、砂糖など農産品の重要5項目の「聖域」扱いを求める攻防が本格化した。T P P交渉に参加する12カ国は首席交渉官会合を開催中の米ワシントンで20日から23日まで、関税の撤廃・削減を扱う「市場アクセス」についても2国間を軸に協議を進める。

日本は8月にブルネイで開催された交渉会合で米国やカナダを除く6カ国と、関税撤廃・削減のリストを交換。10年以内に関税を撤廃させる品目が全品目に占める割合を示す自由化率について85%未満の水準を提示した。米国とカナダに対しても協議序盤では80%台を提示し、互いの重要品目の扱いを確認する。

T P P交渉は関税の原則撤廃（自由化率100%）が目標とされるが、日本はコメ、砂糖など農産品の重要5項目などを「聖域」と位置付け、関税を残したい考え。一方、米国やカナダもそれぞれ砂糖、乳製品などの関税を重視しており、日本は協議で妥協点を探る。米国が主導する交渉参加国は、10月にインドネシア・バリ島で開かれるT P P首脳会合での大筋合意を目指し、ワシントンで首席交渉官会合を開催。新たな経済ルール策定などの課題を整理している。一方、関税撤廃は各国の個別品目の関税を精査する必要がある、「協議が進むのは10月の首脳会合後になる」（交渉関係者）との見方が多い。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp